

日頃より九州交響楽団の演奏活動に深いご理解と多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて皆さまご承知のとおり、新型コロナウイルスによる感染が世界的に急拡大し、福岡県も厳しい状況に晒されております。その影響は経済活動や社会生活のすべてに及んでいますが、弊楽団におきましても極めて深刻な事態に直面しております。

そこで、公益財団法人九州交響楽団として、ここに音楽ファンの皆さまや支援、応援を頂いているすべての皆さまに向けて、弊楽団理事長よりメッセージをお伝えさせていただきます。

公演中止・延期が続いておりますことをお詫び申し上げます

まずは、新型コロナウイルスへの感染拡大防止の観点から公演中止・延期が相次いでいることにつきまして、ファンの皆さまに深くお詫び申し上げます。感染防止への取組みは社会全体が一致して注力すべき優先課題であり、この認識の下、苦渋の決断ではありますが、予定していた公演を中止ないし延期している次第です。国や地方公共団体からの大規模イベント自粛の要請を受けたものでもありますが、公演を楽しみにお待ちいただいていた皆さま方のご期待にお応えできない結果となり、大変申し訳なく思っております。

九州交響楽団にとって危機的な状況を迎えつつあります

公演の中止・延期は、ファンの皆さまの落胆だけでなく、主催者・演奏者側にも甚大な影響を及ぼしています。プロフェッショナル・オーケストラは、多くの方々のご支援を頂いて運営していますが、基本的には演奏会を行うことによって得られる入場料収入によって支えられており、演奏者への報酬、会場の設営、事前の準備なども大部分が公演収入によって賄われています。公演中止が続くことは、オーケストラの活動を支える柱である収益が断たれることを意味し、活動の継続、ひいては演奏団体としての存続そのものが危機に晒されることとなります。九州交響楽団は公益財団法人であるため、収入と支出を均衡させなければならない「収支相償の原則」で運営されており、利益を蓄えておくことができません。財政基盤が失われれば最悪の場合、解散を余儀なくされるおそれも生じるのです。

楽団のみならず個々の楽団員も危機に直面しています。楽団員は九州交響楽団との雇用契約の下で演奏に従事していますが、雇用契約の場合でも所属楽団の存続が危うくなれば仕事を失うリスクに直面します。プロの演

奏家は、長年にわたる高度な専門的教育と修練を経て才能を花開かせ、日頃の研鑽に努めながら良質の演奏を提供しています。このような演奏家たちが、生活基盤を失い芸術活動から退いてしまえば、社会全体の音楽芸術の基盤が失われることにつながりかねず、計り知れない社会的損失となってしまいます。

九州、福岡の音楽芸術を守るためのお願い

このような状況下、九州交響楽団では最大限の自助努力を行っておりますが、このかつて経験したことのない危機的状況のもとでは、自助努力だけでは解決できない程度にまで問題が深刻化しつつあることも事実です。楽団がこの危機を乗り越えて存続していくことができるよう、これまでご支援いただいていた企業・団体の皆さまには、厳しい状況の下とは存じますが、引き続きのご支援をお願い申し上げますとともに、文化庁をはじめ、国や地方公共団体の財政出動による緊急のご支援や、幅広い個人の皆さまからのご支援など、九州交響楽団の存続と活動の継続に向け、これまで以上に強力なご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます次第です。

演奏会の再開につきましても、長期戦に備え、地域ごとの状況や個々の演奏会の性格なども加味した、きめ細かいガイドラインの策定が望まれます。一律の全面的自粛ではなく、例えば、今後感染者が減り完治者が増えている地域においては、個別に感染予防対策を工夫すれば演奏会を実施できるような判断もありうるのではないかと考えます。

これからも音楽の素晴らしさをお届けします

芸術活動は、衣食住のような生活の基礎的条件とは異なりますが、我々の心を潤し、暮らしを豊かにするという意味で、やはり無くてはならない存在です。良質の音楽は、われわれの停滞した気持ちを目覚めさせ、喜ばしい機会には楽しさを増幅し、不安に揺らぐ心を静め、悲しみに沈む魂に癒しをもたらしてくれます。

とりわけ音楽の醍醐味は生演奏にあると思います。コンサート会場という同じ空間にあって、演奏者と聴衆が豊かな響きの中で一体化し、感動を共有できるのは素晴らしいことです。

音楽は人の心に直接働きかけます。どのような状況下にあっても、変わることのない恵みをもたらしてくれるのが音楽だと思います。現在の世の中の雰囲気は委縮している時こそ、そこに潤いをもたらすことができるのではないのでしょうか。

これまで九州交響楽団の団員たちは、定期演奏会などコンサートホールでの公演に加え、熊本地震をはじめ大規模自然災害に遭われた被災者の皆さまに、様々な形で音楽を届けるという取り組みを行ってきました。文化庁や福岡県市町村振興協会さまからの委託事業で、各地の小中学校に各楽団員が出向き、子どもたちに生の演奏を聴いてもらうという活動も継続的に実施しています。

私たち九州交響楽団は、良質の音楽を届けるという原点を忘れることなく、現在の危機的状況にあっても、工夫しながらその社会的役割を果たすべく努力しています。これまでの演奏会の模様をインターネットで配信するなどの取り組みも進めていますし、楽団員たちも自主的にSNSや動画共有サービスを活用して個人演奏をお届けしています。現在のパンデミックが落ち着くまでの間、活動水準は低下せざるを得ませんが、その先を見つめて精進を続け、条件が整い次第、地域の皆さまのニーズに応えるという大きな使命を十二分に果たしていけるよう準備してまいりたいと思っています。

あらためて、今ここにある危機と九州交響楽団を取りまく逆境についてご理解を賜りますとともに、なお一層のご支援・ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2020年4月17日

公益財団法人 九州交響楽団
理事長 櫻井文夫